【機関情報】

社会教育

▲相馬市立日立木小学校　「相馬市民謡の鑑賞」の様子
～学校支援地域本部事業による～

CONTENTS

【県主催事業紹介】……2～4
学校支援地域本部事業について
＜事例紹介＞
相馬市学校支援地域本部
桑折町体験活動・ボランティア活動支援センター
【論説】……5
「生涯学習活動のコーディネート」
～学校と地域を“つなぐ”試み～
いわき市学校・家庭・地域
パートナーシップ推進事業
事業推進コーディネーター　矢吹　清光
【輝け！社会教育】……6～7
金山町中央公民館
南会津町立荒海小学校父母と教師の会
白河市立みさか小学校図書ボランティア
広野町社会教育委員の会議長　遠藤千恵雄
【平成25年度社会教育関係各種表彰受賞者】‥8
【平成26年度福島県社会教育施設行事予定】

福島県教育委員会　No.334

学校教育の充実、地域の教育力の向上をめざして！

学校支援地域本部事業

～学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる～

文部科学省では、平成２０年度から「学校支援地域本部事業」を立ち上げ、地域ぐるみで学校を支援する体制をつくる事業を進めています。本県においても、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進することにより、多忙な教員や地域の大人が子どもと向き合う時間を増加させるとともに、地域住民の学習成果の活用機会を拡充させ、地域の教育力の活性化を図ることを目的とし、地域人材や社会教育団体などの協力のもと、学校が支援を必要とする活動について地域の方々がボランティアとして参画し、地域全体で子どもたちの学校における教育活動を支援する体制づくりを推進しています。

学校支援地域本部がめざすもの

○子ども達の教育をよりよいものとします

地域の大人が学校の教育活動に関わることで、多様な体験や経験の機会が増え、規範意識やコミュニケーション能力の向上につながります。また、地域住民の協力を得、多くの大人が子どもたちを見守ることで、教員が教育活動により一層力を注ぐことができるようになり、よりきめ細やかな教育ができるようになります。

○生涯学習社会を実現します

地域住民が、自らの経験や知識を、未来を担う子どもたちの教育に生かすことができます。これにより、生涯学習の成果を生かす場が広がり、自己実現や生きがいづくりにもつながります。

○地域の教育力が向上します

地域住民が学校の教育活動に携わることで、地域のきずなづくりにつながり、地域の教育力が向上します。これにより、地域の活性化や学校を核とした地域づくりにもつながります。

学校支援地域本部事業のイメージ図

実践事例

相馬市学校支援地域本部

相馬市学校支援地域本部事業について

～学校・家庭・地域の協同活動～

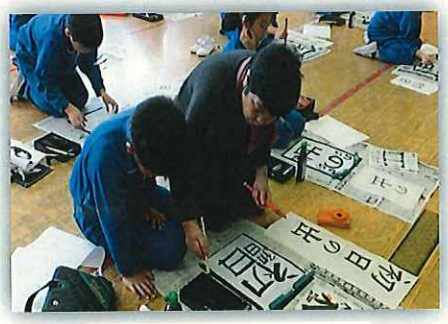
学校支援地域本部事業は、学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで子どもたちを育てていくことを目的とした国の委託事業です。相馬市においては、平成２０年度よりモデル事業として中村第一中学校、中村第一小学校、桜丘小学校、大野小学校の４校を対象に開始しましたが、平成２５年度からは市内全小中学校に対象を拡大して実施しています。

▲「下校見守り隊」の様子

相馬市では、学校と家庭・地域ボランティアの間を取り持つ役割を担う地域コーディネーターに教員ＯＢを積極的に配置し、ボランティアの調整に努めていますが、その大きな特徴は、学校への積極的な訪問による学校からの要望の聞き取り、内容の精査、ボランティアの調整と学校側が期待する内容と派遣されたボランティアの方々の活動内容に差が生じないよう「支援内容調査カード」を利用した取組です。

また、ボランティアを対象とした研修会を行い、スキルアップの場を提供するとともに、ボランティアや教員、子どもたちへのアンケート調査を実施し、その結果を次年度の活動に活用しています。

近年、学校支援の内容が、「放射線教育」や「新聞記事の書き方」、「梨の作り方」など専門分野に及ぶ要望もあり、そのような専門知識を持ったボランティア講師を確保することに苦慮している部分もありますが、外部機関等からの協力により、学校からの要望についてすべて対応している状況です。



▲「書き初め指導」の様子

震災前に１００名を超えていたボランティア登録者数が、震災の影響により一時５０名ほどまで減ってしまいました。しかし、関係者の努力により、ようやく１００名を超えるまでに回復したところです。ただ、まだまだ人材が不足している状況であり、今後も地区老人会や自治会へ積極的なボランティア登録をお願いしていく予定です。

実践事例

桑折町体験活動・ボランティア活動支援センター

学校の教育課程と連動
地域の知と技をクラブに
日頃できない体験を！
～地域で子どもを育てよう～

桑折町体験活動・ボランティア活動支援センターでは、「学校支援」「こおり地域クラブ」「体験チャレンジ活動」と「広報活動」の事業に取り組んでいます。

「学校支援」では、教育課程に位置付けられた「サポーター要請計画」を基に、実際に授業をする先生と学習支援ボランティアをコーディーネーターがつなぎます。その際、ねらいを伝えたり、必要に応じて打合せの時間を設けたりしています。具体的には、郷土学習（史跡めぐり、半田沼崩壊、王林りんご誕生、昔の遊び、祇園ばやし太鼓など）自然・森林観察、茶道・華道、ミシン操作、和食のよさ、読み聞かせ、道徳などでの学習支援、花壇整備・図書のバーコード化などの環境整備を実施しています。

▲「大豆のへんしん！とうふつくり」の様子

「こおり地域クラブ」は平成１４年から実施された完全学校週５日制に伴って、学校・家庭・地域社会が相互に連携し、子どもの主体的な生き方を支援していく場として設立されました。指導者は、さまざまな技術・技能を持っている方々で、ボランティアで指導していただいております。絵手紙、スポーツダンス、書道、料理、硬式テニス、祇園ばやし太鼓、科学クラブなど２０のクラブがあり、町内小学生の２８．６％が参加し、各クラブが年間２０回程度活動しています。

「体験チャレンジ活動」は毎年１回の活動で、ツリーハウス、古代住居、手作り車、まが玉などの製作や野焼きなどを行ってきました。９年目の今年はバードウォッチングと巣箱づくりで、子ども達とサポーターの交流を図りながら楽しく活動しました。

以上の活動を支援センターだよりに掲載し、地域住民への周知を図っています。今後も学校や保護者、地域住民が「地域で子どもを育てよう！」という同じ意識に立ちながら、地域の教育力の向上と地域の活性化を図っていきたいと考えております。

▲「県内初の電気自動車製造」の様子

論　説

「生涯学習活動のコーディネート」～学校と地域を“つなぐ”試み～

いわき市学校・家庭・地域パートナーシップ推進事業
事業推進コーディネーター　矢吹　清光　氏

学校と地域が連携・協力した取組は今にはじまったものではなく、学社融合の必要性が論議されていたころ、また、総合的な学習の時間がスタートしたころなどは、学校教育と社会教育をつなぐさまざまな実践が各地で盛んに試みられた。

本市でも平成３年度に地域人材の活用を図る「市民講師活用事業（市民が学校にやってきた）」を皮切りに、平成１７年度には学校・地域の双方が教育資産を共有し、有効に循環させる「学社連携・融合事業」を全小・中学校で展開するとともに、平成２０年度から３年間は「学校支援地域本部事業」を市内２地区で展開してきた。これらの取組の成果と課題を踏まえ、学社連携・融合事業と学校支援地域本部事業のしくみを発展的に統合し、新たに平成２４年度から、本市独自の「学校・家庭・地域パートナーシップ推進事業」として、公民館（３６館）を起点（つなぎ役）に、子どもたちを地域ぐるみで守り育てるための土壌づくりをスタートさせた。

ここで、その取組の特徴の一端を紹介したい。

一つ目として、「過去の経験を基盤に、できるところから無理なく活動の輪を広げたこと」である。本市は広域都市であり、学校教育及び社会教育をめぐる地域の状況、課題はさまざまである。例えば、学校と地域との関係だけをみても、既に長年の連携の実績がある地域からほとんど地域社会との連携の実績がない地域まで、ボランティアになりうる方がたくさんいる地域から人材の確保が非常に困難な地域まで、地域社会の中で学校の存在感が相対的にそれほど高くない地域から学校を地域の拠り所として頼りにしている地域までなど多様である。従って、地域ごとに本事業のあり方、進め方は異なったものであってよいはずである。自らの地域に適したあり方、進め方を市全体の中で考えていくことが大切である。

二つ目として、公民館が学校と地域のコーディネート役割を果たす目的で、地域別に「学校と公民館の情報交換会」を年２回開催している。具体的には、学校と公民館両者の立場から連携事業の実践例を紹介するほか、学校からのニーズを受けて公民館が地域人材の紹介等を行っている。そのことにより、公民館にとっては「学校のニーズ等を直接探る場」となっている。学校にとっては「教育課程への位置づけを見据えた子どもたちの教育活動の充実を図るための人材発掘の場」となっている。

> 補足「公民館を起点」にしたことについては、①学びを通して地域資源や人材、団体等の情報が集まっている。②地域に密着した活動が行われ、地域づくりの機能を併せ持っている。③おおむね中学校区単位に設置されている等、公民館には学校と地域をつなぐための豊かな土壌があるという強みがあるからこその試みである。

地域全体で学校を支援し、子どもの育ちに関わっていく取組は学校や地域の活性化につながり、今後の本市の復興を担う子どもたちの育ちにとって大事なことである。

今後も本事業の周知理解を図っていくとともに、本事業のさらなる充実に向け、学校と公民館だけでなく、企業や団体、各種機関、行政の他部署とも連携を深めながら、学校支援活動等の推進と「地域ぐるみの人づくり」体制の構築に向けて取り組んでいきたい。

プロフィール　やぶき　きよみつ

2008年　公立小学校長退職後、いわき市社会教育指導員を務める。
2012年　「学校・家庭・地域パートナーシップ事業」コーディネーターとして現在に至る。
（いわき市教育委員会生涯学習課所属）

○学校教育と社会教育とのギャップに悩みながら、「二つの目」に視点を当て、活動中。
一の目：教職経験を生かし、学校を「内側から察する目」
二の目：コーディネーターとして学校を「外側から察する目」

輝け！社会教育

～活動事例の紹介～

地域が一体となった「ふるさと教育」の推進

金山町中央公民館

金山町は県内一の子どもの割合が少ない町です。地域で遊ぶ子どもの姿が見られない状況の中、子どもたちが共に遊び、かつ地域の大人たちから郷土の知恵を学べるように、子どもと地域をつなぐ教室を開いています。

放課後子ども教室は小学校区ごとに開設しています。昔語り、縄ない、だんごさし、豆ぶちなど、郷土の文化と自然が体験できるよう、しかも地域の人との交流ができる場です。また、「こめらっこ教室」は町内の小学生全員を対象とし、年間６回の体験活動を行います。わくわく科学体験、湿原での自然体験、沼沢湖でのカヌー体験、リサイクル学習、裏磐梯トレッキング、ばあちゃんと郷土料理など、地域の人や仲間と交流しつつ体験の幅を広げています。

▲「こめらっこ教室」の様子

今後、事業を拡大して地域を守る活力を取り戻すため、ふるさとに誇りを持つ０歳から１８歳までの子どもを見守り育てる「ふるさと教育」を、地域が一体となって発展させたいと考えています。

▲「豆ぶち」の様子

荒海（あらかい）の子どもは荒海（あらかい）で育てる

南会津町立荒海小学校父母と教師の会

本会は昭和２４年創設、当時８００名を越していた児童数も、現在は１１２名の小規模校です。しかし、保護者・地域の学校に対する思いは強く、ＰＴＡ活動にも積極的に取り組んでいます。その中から二つ紹介します。

一つ目は地域と一体となった防犯・安全活動です。毎朝、見守り隊の皆さんと一緒に子どもたちに声をかけ、安全な登下校を指導しています。また、小中学校のＰＴＡと一緒に「子ども避難の家」の挨拶回りなども行っています。

▲「見守り隊と一緒の交通安全指導」の様子

二つ目は地域の自然・産業・歴史を学ぶ多彩な活動への協力です。町探検や川、里山探検など、校外での活動に保護者が学習ボランティアとして必ず協力しています。また、スキー教室の講師や総合的な学習の時間でのゲストティチャーなどにより、積極的に学習を支えています。

▲「里山探検の学習ボランティア」の様子

今回、優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰をいただきました。これを機にＰＴＡの役割を再確認し、「荒海の子どもは荒海で育てる」という思いを受け継ぎながら、さらに充実した活動を行っていきたいと思っています。

輝け！社会教育

～活動事例の紹介～

「無理せず・楽しく」こつこつ続けています

白河市立みさか小学校 図書ボランティア

１９９７年４月に開校したみさか小学校の子どもたちのために学校・家庭・地域が連携しようと、翌年秋に地域の住民が「学校教育支援ボランティア」を立ち上げました。

伝承遊び、地域と学校の交流会、本の整理や修理などの活動の中から図書部門が独立し、朝のおはなし会や人形劇、選書や登録の作業など、現在の活動へと続いています。

メンバーは在校生の保護者の他、地域から、またお子さんの卒業後も続ける人など、様々な世代が集い、

▲「朝のおはなし会」の様子

みさか小学校が広く受け入れてくださっています。

私たちの合言葉は「無理せず・楽しく」「できる時に・できる人が・できることを」。

▲影絵人形劇「カラス」上演の様子

得意分野を活かし、各人の仕事の都合を配慮して活動や作業を分担。メールやお手紙などを用いて、ボランティア間の情報共有や学校との連絡を確実に行うように心がけています。

子どもたちの笑顔が私たちの元気のもと。「読書が好き」という子どもが増えるように、これからもこつこつ続けていきます。

社会教育功労者文部科学大臣表彰を受賞して

広野町社会教育委員の会議長　　遠藤　千恵雄

この度、文部科学大臣より、社会教育功労者の表彰を受け、大変名誉なことと存じます。これもまた、今まで私を育ててくれた方々のお力添えがあったからと深く感謝申し上げます。

教職の身にありながら、夏や冬の休みを利用し、東京での学習会に参加し、レクコーディネーターの資格を取得し、習得したことを授業の中にゲーム化して取り入れ、子どもたちに大変喜ばれたことを思い出します。

教員を退職してからは、町の社会教育委員として、公民館での寿学級を担当し、勉強の手助けにゲームや運動、ちぎり絵作り等、手先を動かす活動を取り入れ、老人の持つ残存機能を掘り起こすことに努めました。また、福島介護福祉専門学校教員として１６年余、介護の人材育成のお手伝いもしてまいりました。

現在は、いわきレク協会や県レク協会、いわきわいわい塾のお手伝いをしたり、各種ボランティアに参加したりしています。

広野町は震災前の姿を未だに取り戻しておりませんが、今はただ早い復興を願うばかりです。

平成25年度社会教育関係各種表彰受賞者

表彰区分	被表彰者氏名・被表彰団体名	受賞月日	表彰者
社会教育功労者	○広野町社会教育委員の会議長　遠藤千惠雄 ○元福島県市町村社会教育委員連絡協議会理事　佐藤　守男 ○日本ボーイスカウト福島連盟理事長　増子　惠二	11月14日	文部科学大臣
優良公民館	○金山町中央公民館 ○郡山市立橋地域公民館	3月4日	
優良ＰＴＡ	○南相馬市立原町第三小学校父母と教師の会 ○南会津町立荒海小学校父母と教師の会	11月19日	
ＰＴＡ活動振興功労者	○県特別支援学校ＰＴＡ連合会会長　木曽　明美 ○県ＰＴＡ連合会会長　佐藤　辰夫 ○県ＰＴＡ連合会元会長　浪岡　真澄	11月19日	
地域による学校支援活動	○相馬市学校支援地域本部 ○桑折町体験活動・ボランティア活動支援センター ○あだち地域子ども教室 ○郡山市御舘地区学校支援地域づくり	12月5日	
視聴覚教育・情報教育功労者	○公立大学法人会津大学非常勤講師　佐藤　和紀	9月20日	
子どもの読書活動優秀実践図書館・団体（個人）	○白河市立みさか小学校図書ボランティア	4月23日	
社会教育功労者	○南会津町社会教育委員長　猪股　純一	11月1日	福島県教育委員会
功績顕著な団体・施設	1　団体 ○須賀川市立仁井田小学校父母と教師の会 ○下郷町立旭田小学校父母と教師の会 ○南相馬市立大甕小学校父母と教師の会 ○二本松市立安達太良小学校父母と教師の会 ○福島市立蓬莱中学校父母と教師の会 2　施設 ○郡山市立芳賀地域公民館 ○郡山市立逢瀬公民館 ○奥会津　臣の郷	11月1日	
全国社会教育委員連合	○前福島県市町村社会教育委員連絡協議会副会長　国馬　善郎 ○安達地方社会教育委員連絡協議会長　齋藤　元	10月24日	一般社団法人全国社会教育連合会会長
日本PTA全国協議会	1　団体 ○新地町立新地小学校父母と教師の会 ○いわき市立久之浜第一小学校ＰＴＡ 2　個人 ○福島県ＰＴＡ連合会副会長　藤原　聡 ○福島県ＰＴＡ連合会副会長　村上　和行 ○福島県ＰＴＡ連合会副会長　小竹　晴彦 ○福島県ＰＴＡ連合会副会長　西　道典	11月19日	（公社）日本ＰＴＡ全国協議会会長
東北地区社会教育委員連絡協議会	○遠藤百合江（相馬市） ○大河原輝男（三春町） ○亀岡　直樹（郡山市）	10月9日	東北地区社会教育委員連絡協議会

平成26年度福島県社会教育施設行事予定

福島県立図書館	福島県立美術館	福島県立博物館	福島県自然の家
村岡花子からのおくりもの～「赤毛のアン」から「いたずらきかんしゃちゅうちゅう」まで～ ３月７日（金）～６月４日（水） 「細字書道の会」 ４月４日（金）～４月３０日（水） はるのおはなしかい「ちひろ美術館コレクション：世界をめぐる絵本の旅」展にて ５月３日（土）、５月１７日（土） ５月２４日（土）	「いわさきちひろと世界の絵本展」 ４月２６日（土）～６月１日（日） 「コレクション・クッキング展」 ７月１９日（土）～９月１５日（月） 「小川千甕展」 １０月１１日（土）～１１月２４日（月） 「飛騨の円空展」 １月２７日（火）～４月５日（日）	写真展　東北一風土・人・くらし ４月１９日（土）～５月１８日（日） アイヌ工芸品展（仮称） ７月１９日（土）～９月１５日（月） みちのくの観音展（仮称） １０月中旬～１２月上旬	郡山自然の家オープンデー ９月１４日（日） 会津自然の家あったかふれあいまつり １０月１９日（日） いわき海浜自然の家秋のオープンデー ９月２８日（日）

福島県社会教育委員　＊ 任期：平成２４年６月２０日 ～ 平成２６年６月１９日

阿久津文作　伊藤行和　金子英昭　川島久美子　國馬善郎　小林清美　佐藤紀子　佐藤晴美　佐藤房枝
瀬田弘子　新井田 萬壽子　箱崎紀雄　浜島京子　古川満里子　本間悦男　渡辺直也　（五十音順）

編集後記

この機関情報に収められた実践事例には、地域の活動を支えるたくさんの人たちの熱い思いが綴られている。そのような取組に学びながら、社会教育推進には何が必要なのか、子ども達にとって大人達にとって豊かな出会いとは何なのか、学びとは何なのかを日々模索しているところである。今後も各取組を一歩一歩着実に進め、福島県の社会教育の充実につなげていきたい。震災から3年が経過し、まだまだ復旧・復興が進まず、先の見通しが持てない地域も少なくない。しかし、福島県内で着実に復興が進んでいる地域があることも確かなことである。「今できること」を身近な人や地域と絆を深めながら実行することで、地域力を再構築し、福島県の復興に向けて取り組みたい。社会教育を通して、及ばずながら私自身も思いが伝えられるように。

平成26年3月26日発行
社会教育 No. 334
編　集　社会教育課
発　行　福島市杉妻町2-16